

岩手県性教育研究会
会長 佐藤 恵

1. はじめに

性に関する指導においては、自分と他者を大切にする生き方の教育に加え、現代的で多様化する課題が加わり、いつどのように実践することが子どもたちの豊かな人間形成に向かうのか困惑する日々を繰り返している。

さて、岩手県では4年ぶりに活動を再開し、まずは教育者にとってニーズの高い内容を企画し、会員集めから再スタートした。

2. 研修会の開催

- 期 日 令和5年10月28日（土）
- 会 場 岩手県立不来方高等学校
- テーマ

～子どもたちが生命を尊び、幸せを感じることができる性教育を求めて～

3. 研修会の内容

○基調講演

「岩手県性教育研究会の歩み」

岩手県性教育研究会会長 佐藤 恵



県性研発足の経緯、小中高の多くの教諭と養護教諭がともに学び質の高い研修が行われてきたこと、毎年の研修会はもとより全国大会をこれまでに3回開催したことなどに触れ、今後の方向性について提案ができた。

また、性教育の実践者として、子どもたちが変わっていく様子を紹介し、改めて性教育の重要性を確認する機会となった。

○講演

「今、学校に求められる性に関する指導」

全性連 理事長 野津 有司 氏

学習指導要領に「心身の健康の保持増進に関する教育のイメージ」に「個別指導」が盛り込まれた。そこで、保健教育としての性に関する個別指導の在り方について示唆に富んだ内容を拝聴し、性教育を進めるイメージが膨らんだ。

○講義・演習

「性別違和を感じている児童生徒への対応
～仮想職員会議で話し合おう～」

全性連 理事長 野津 有司 氏

《場面設定》

性別違和を感じている児童または生徒が、養護教諭に相談した。これを受けて「安心して学校生活を送るためにはどのように関わっていくのが良いのか」を職員会議で話しあう。



グループ毎に役割を決めて仮想職員会議で話し合いをした。野津氏は、「困り事やつらさを相談しやすい関係性づくりと環境づくり」が重要と話された。

4. 参加者の感想

- 学校現場ですぐに実践できる内容だった。普段からの相談しやすい雰囲気づくりが大切だと改めて気づかされた。
- 生徒が何に困り、どうしてほしいのか把握し、安心できる方法を共に考える姿勢・関係づくりが大切だということを学ぶことができた。
- 今後は、集団指導や個別指導を効果的に行うための留意点等について研修したい。



5. おわりに

全性連のお力添えをいただき、無事研修会を終えることができた。今後は会員数を増やし、より実践的で充実した研修会の企画を工夫したい。今後ともよろしくお願ひします。